

911.3
卜

東華集

支考

12/1/18

牛車集

上

表合

四格辨

詩は四格といふ多き起定轉合の句也起は客也
 定ハ亭ら也轉はお侍の人也合ハ肝
 質の料理はかま酒のおもも知人
 客は客とてそれのうめ
 起は客の料理はゆく
 起は温和なるぬる
 起は風情を
 起は



Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of entries. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically. It appears to be a list of items or names, possibly related to a collection or inventory.

○ 第一項 某某
第二項 某某
第三項 某某
第四項 某某
第五項 某某
第六項 某某
第七項 某某
第八項 某某
第九項 某某
第十項 某某
○ 第十一項 某某
第十二項 某某
第十三項 某某
第十四項 某某
第十五項 某某
第十六項 某某
第十七項 某某
第十八項 某某
第十九項 某某
第二十項 某某

○時宜時分時宜天お款お喜人其場はせき
おなくも平句の附方にもおきく人時分時宜
月れれゆ〜く也時宜ゆ〜くそのりそのおり
あきりて當節の真〜ゆめつおきふ〜りか
やくも〜眠の句〜ゆ〜に〜ゆ〜〜ゆ〜〜ゆ〜
おもおもゆゆの足海も〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
風花雪月よつ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
先ホハ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

○附句よきと通あり虚實あり遠近を附記

まこと〜してお遊の端也虚実を〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

○附句に死活の二ありゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
おのゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

○あ〜人目附句ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

輪廻と云ふありせ又さうをのしり者も附き
白の露とありき先く一妻の娘と云ふこむ
就る附白ハキく一白よ一白たうしてハチウコト
やうき屋一我人の心きうひて一白に白も
白とゆふさういけけう一白よ一白附白とゆ
ひはふさう白解の名目とありていふのこ也
微潜きさみゆめいさうさうさうさう

元禄乙卯種九月重陽日

東善坊

支考撰

山標

洛陽

うう浮世く一山標と云ふ也
柳津ううのり竹の子春雲
六甲の吹波あやうきもけうりて
せうきさうきさうのねき折く
憲揚て月と露と花のやう
勢のありりはとるさうき
ゆさうさうさうてや梅と好しん
凡よ一葉のさうさうとさう

志来

支考

正秀

野童

風園

野明

流足

為首

才一

石島のりやは口をきくも一歳をくもさるる家の子
わしてきくもやと人なりつるる一きく
時さいとわつたきくもや

才二

其人やかあしつたきくもやと一歳をくもさるる家の子
りつたにりつたきくもやと一歳をくもさるる家の子
あ子のたのめあしつたきくもやと一歳をくもさるる家の子
りつたにりつたきくもやと一歳をくもさるる家の子

才三

時正やいさきゆつたきくもやと一歳をくもさるる家の子
つれきくもやと一歳をくもさるる家の子

近江

膳所

妻の徳やゆつたきくもやと一歳をくもさるる家の子

酒堂

よくわゆるにあり屋の志

み考

秀殿のかきくもやと一歳をくもさるる家の子

墨東

あしつたきくもやと一歳をくもさるる家の子

探芝

あしつたきくもやと一歳をくもさるる家の子

野徑

次才田一ゆく一の一才

遅堂

初孫子伊野のぬれ結俣馬

卧高

よくわゆる乃盆の常らと一

昌房

第一 此乃... 之... 也

第二 此乃... 之... 也

第三 此乃... 之... 也

大松

第一 此乃... 之... 也
第二 此乃... 之... 也
第三 此乃... 之... 也
第四 此乃... 之... 也
第五 此乃... 之... 也
第六 此乃... 之... 也
第七 此乃... 之... 也
第八 此乃... 之... 也

才一

流りのまよせ特舟をうらまのらさるひよしの
てまよあつてうらまのらさるひよしの
まよあつてうらまのらさるひよしの

才二

けさのやまの菊袖もまよまらうやまの
揃うらまのらさるひよしの
まよあつてうらまのらさるひよしの

才三

まよの人ちりけさとうらまのらさるひよしの
揃うらまのらさるひよしの
まよあつてうらまのらさるひよしの

東宮院
大垣

途中うらまのらさるひよしの

本園

麦の穂はうらまのらさるひよしの

赤川

布子帯うらまのらさるひよしの

知用

下子の拍栗をうらまのらさるひよしの

丸餅

目のまよけうらまのらさるひよしの

李牧

月うらまのらさるひよしの

丸柳

春編うらまのらさるひよしの

赤子

才一

不易のりや女手とらうたはよけと極先
つねにそのまのまにそのあきり極ら〜きり
んこものあか〜

才二

財をいやくふあ〜の思ふふらしてきりかゝるま
しけとたふふ畠中であつさあ〜ん胡麻の早〜
在あ〜あや世伝の傍也

才三

其人の二指をり極人のよのうふら〜ん〜たあ〜あ
ま〜してあ師の在記もあ師きりる極らも〜いひ
ふあ〜〜是きり極ら〜れ〜い〜まきりるあ〜い
〜ら

才ヶ鼻

あひあの松も夕りや鏡のあ

夕湖

川の子ほまよ寺り 久野

あきり

畠あま半個もあ〜あ〜あ

素直

埃吹〜ハあまあ〜あ〜あ

竹梁

湖とえ海と縁取のあ追手

巴静

か鏡のああ〜あ〜あ〜あ

我智

海と〜あ奴系〜あ〜あ〜あ

水石

い〜あれ〜あ〜あ〜あ〜あ

一海

言須

中身より女きりたるに田種

鹿野

系ありきり甲子年之味強

あき

素山の果はわらば夜の手て

航派

鴨のねる乃口和月く

瓢酒

鴨も来ぬ念地のもりのく

任子

こやちの持とす月喰くた

苦茶

大町切よりれと孫の如きし

破舟

ふきり晴き所ハ馬乃わさ

盧山

才一

不易の才也 中身のそとに ぬれはつらなく
合のやとさくさくし ぬれさくさく何れも
おとよばねのり ぬれさくさく何れも
其人也 二十に 存のえん ぬれさくさく
ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

才二

其場をさくさくの ぬれさくさく ぬれさくさく
やう中 ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく
ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

才三

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく
ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく
ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

才一

言海

中身 ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく ぬれさくさく

龍碎

あき

航派

航派

任孝

苦金

破舟

盧疎

尾張

尾張

麦の節や布衣の夕涼

富川

静かなる六月の雲

みち

静かなる六月の雲

捨石

静かなる六月の雲

仙角

湯とのむいけいとほのきく

千声

庭根の軒子と何く

瀛濠

庭根の軒子と何く

和泉

庭根の軒子と何く

似偃

才一

才二

才三

流りのりや布衣の夕涼みハまゝの笛
 子もわきまゝとおぼへてわたりをさるる又上の
 所のの宛又たすに比真一
 時をたや中よついで
 とや勝とさる二月の中は月をさるとわらん人の
 さる一りたるうらまはけの趣向又わさる
 其場や又さる月をさるとわらるる
 きららん原さるのさるる
 きらんのきららん

今

ね〜お次まてハ麻おろし

九次

板寄屋の窓の松葉り

五次

井戸端の酒飲とれ

氣原

夕合とやふ村のや

和歌川

かすおとよふと病し

東推

おとろ下と

次

月影の化と

川

昔の〜とれ

浮

守一

ふ島のりやあらのそ娘のくらりうらよふ

守二

其人の用いけはけの清のきり身てられん

守三

きにかい森入るととては所傳ゆくと

全

は紫陽花の化くわきやゆ風が 東推

佐倉屋目う経友り月 志彦

そらうらなをわはほく今もれし 松生

傘子よ木を借りりよのともはさ 夾始

宗おり鳥とつれ神 宗家 三喜

おさなひ君の起きむ川 白河川

つねの香の海くぬ松子ぬ布 越赤

鳥くぬ海くぬ 越赤

才一

才二

才三

流りのあまの草の火のぬくあれりききふと
の周と仕着ききりぬるせりふと又一附の風流
をうぬき列の何れのきりぬるあつたの
あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの
きりぬるあつたのきりぬるあつたの

天おとこの人の二時よりふりふり
海系おとこの人の二時よりふりふり
あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

今

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

あつたのきりぬるあつたのきりぬるあつたの

山文

七考

五席

煙水

葉水

葉水

葉水

葉水

才一

流りの若也さあかりのそはちのそはちま菰子勢の
けりてむおぬあつた様とよひぬたきりそく眼
前の内泳也

才二

まおん田の種の本よはまぬとぬてそのそは
勢もまらぬんもまらぬおとひうまきま
あつたのそは也

才三

まおん林藤の田つらぬりかそにわあそまらぬ
のそはまきまらぬまらぬそはまらぬのそはまらぬ
まおんあつたのそは也

才海

まおんあつたのそは也

まおんあつたのそは也

まおんあつたのそは也

まおんあつたのそは也

まおんあつたのそは也

まおんあつたのそは也

まおんあつたのそは也

まおんあつたのそは也

知是

まき

如凡

地お

安宜

亀世

業言

自笑

才一

不易の事也。表のたたと吹くく〜する風の採り
うらみなりりりて程ありき〜おお其のさゆ也
藤子風といへ〜さるる金情なりれ〜
附言也。山馬山報信の事。事感たもま〜薩佛の
意もあらぬ〜さるる〜
又好しれ〜さるる〜

才二

身場也。清さありの流あり〜おお其の採りた
〜臨〜ん〜人のさる〜おお其の採りた
〜

才三

全

石布や牡丹の跡のなぬまの

重辰

柳〜糝乃〜州〜 枯笹

孝考

花園が〜る〜馬成あり〜

素谷

〜〜〜ぬ乃〜〜〜

牛歩

並信んぬ楯乃中〜春内者

増本

舟おも〜華と〜開の定帳

と利

〜あ〜る〜る〜滝よ〜平の電

脇水

〜の〜れ〜と〜〜〜待化

徳行

才一

不^レるの^レも^レ也^レわ^レや^レ免^レき^レは^レ海^レして^レ浦^レも^レ少^レくと^レ吹^レき^レ風^レの^レお^レき^レ年^レ流^レき^レく^レ免^レとも^レた^レく^レく^レ

才二

その^レ人^レなり^レ大^レ橋^レの^レ海^レ里^レを^レ免^レき^レひ^レ子^レ乃^レあ^レり^レ免^レて^レそ^レく^レあ^レひ^レく^レの^レ株^レ地^レも^レた^レく^レな^レく^レ前^レ裁^レ測^レに^レま^レて^レあ^レれ^レの^レ終^レる^レこと^レなり^レく^レ

才三

そ^レ人^レの^レ場^レ也^レそ^レの^レ控^レ而^レの^レ不^レ化^レ小^レ佐^レと^レ亦^レと^レ呼^レて^レ一^レ日^レな^レく^レそ^レ免^レき^レく^レも^レ疎^レあり^レそ^レく^レく^レく^レ行^レけ^レ才^レ三^レの^レ一^レ轉^レせ^レ切^レり^レく^レこの^レじ^レま^レく^レき^レ命^レと^レ

大橋の海里を免きひ子乃あり免てそくあひくの前裁測にまてあれの終ることなりく

大出

鬼松の影やうらまや夏の月

香水

地翁乃 穠もりうき 素麴

素麴

日傭やうやうとれぬ大立

日傭

浪施くもりにてうねるくく海

一口

かゝるよ先手れ地乃 船あり

浪木

あふかりともれあり 浪舞殿

梅跡

候もおの書雲より 船く馬島

海狗

まこよ入きほそくく乃 船島

茶白

才一

流りの鳥也本朝の桐千子や里きくは其の鳥さぬわ
しつゝあけ子男世の朝といへともやうなる所
面か

才二

けさの世ゆたり 涼き花あのをぬよ素麴の枝もや
りつゝやけさといひやせきくともをさな

才三

この人也はさのなやとくつか後持の中
さかたき地元の素麴も待くふたり一人
たき

東羨濃 関

笹の葉れ雲よを流る所あふ
雄船つらき長船の才乃徳
若るれとたぬハ揚りまぬきさく
そん橋のまのけあは舟の長
お波は儀の盆のそ先さるる灯籠
尾が留る一知やよ 梨 持
大船よんあは海と振あるき
鷗りかたの一を所人ら財

才文
才考
桃遠
也梨
想た
鳥吹
百孫
舟周

才一

不刃の鼻也中一の舞真ん中もよみまゝに
うきあるとらふは末の捨皮違ふもこのうら
たやうの金

才二

そつ備也そ人も前にふきとらふとあまき
めう海瓜をきまのいん徳ありととの陽子の
人といふあまきとら

才三

その人の母也甥のふまをき目のまき一なり
きはるまの如麻一たはちのこまのまの
海り屋一いれやゑある

東林集

全

鶴の餅とこむしきりに田極るれ

牛の子風乃吹沙が月

化子の歌よ家れの中うて

やの仕給乃盤洗ふ也

乞野の歌人と詩を七折ひり

合ふ一きとど乃そやう下京

新百の百帯ゆゑ乃くれ豊

系摘乃まゝしめれ子傳

角品

七考

如體

露石

黒柳

藤昔

兵泊

正勝

十一

不易の事も種々の形ある事ありんば此
体と云ふは田つきの海新うしとみよし

十二

三おこ一おの肉のと釣魚の味をして竹の子の
身の味もさういふさとの情だつたさういふ

十三

その情もさういふはひらきもさういふは
さういふはさういふはさういふは

此の事も種々の形ある事ありんば此
体と云ふは田つきの海新うしとみよし

全

川原のよきさの春のいらと秋 筆十

松竹ふりさうふ 嫁 連 志考

恵比須御もさういふは 藤屋よりて 五束

ま川大松も名物 理きいさる 増雷

けらうれおさういふはさういふは 東野

程のあうれ 藤屋の増 苦文

一とせのさういふはさういふは 一牛

あうれさういふはさういふは 魯舟

舟一 不易のまじりの海のちひよとあしと名の産
登るよは路とわらうきしん杜り舟中の待
みおりのわなをなす

舟二 舟人も伊勢まつりの船(ま)ちの船子のこころ
かゝらうまゝにわらうあしんこころあふり
舟の橋とわらうあしんこころ

舟三 その指とせしものつらきとあしんこころの産
と産とあしんこころのつらきとあしんこころの産
きとらうあしんこころのつらきとあしんこころ

深田

船行やあし海らな舟行ふ子 浦凡

瓜乃出雲乃し腰し百瑞 志考

朝乃子豆形とけらあしんこころ 谷水

あしんこころとあしんこころのつらきとあしんこころ 魯ん

女房のあしんこころとあしんこころのつらきとあしんこころ 是柳

清きとあしんこころとあしんこころのつらきとあしんこころ 細石

酒とあしんこころとあしんこころのつらきとあしんこころ 友松

酒とあしんこころとあしんこころのつらきとあしんこころ 鷗笑

才一

不効の方ち也元く母のそりしもあう今下流しと
抱養よりをく感懐のせりきうはもとて官女の
風情をく

才二

親お色信か細言の其の母とせくきうはんよたじ
りきうのわんともくうて人とうくきう
うやう

才三

その場んきく其のや月子酒籠とがくいせ
て醜らくともくやとく子のらきわひよあせ
きうや

加活田

切書や涼しな影とありて
田解

今の浮世の清きか
ま考

板橋より釣の足あやいとん
何益

貧者乃月よる呼吸晦日
芦凡

と云佛とくそあくさの世徳
賢小

とくそそ麻のねふ鶴
政行

極の上は信みしててん月れ音
交計

大園揺らう言碓麻衣種
随行

け一表よりか幸の人くりの舎也とれ是も其苗
 の花とてしあき口のすのかとくはく童
 伴海のお燈わくく——き海と寺子ともり
 元一子あきふとかひとくまうさくはんきくやせりとの
 信若とくくく——さにはをまきき——てくれはる
 元ハいさきくあ我ハ候ハ砂糖のたき——色
 かしこの中子ひよりきくらき候は海

かし候——

伊源

半の庵も振る風とく重し異とて必
 酒もくくあきぬ里のぬえ
 化とくすむすとの湯衣もあき
 子卯エりるくく——双云
 多忌若の榴々樹——き月の影
 窓——くく——きあき——いしの風
 山麓のき川来き梅と張く——
 神樹——き——き——り孫宜——蓮

架ト
 支考
 不関
 島中
 母斜
 炊魚
 葵驢
 千尺

十一

不_レるの_レあ_レき_レ也_レし_レし_レ鳥の_レ孫_レ々_レし_レし_レ海_レ比_レハ_レ之_レ月
の_レす_レも_レ軒_レし_レし_レその_レあ_レき_レし_レし_レり_レか_レん_レと_レえ_レれ

十二

し_レし_レ鳥の_レ孫_レ々_レし_レし_レ海_レ比_レハ_レ之_レ月
の_レす_レも_レ軒_レし_レし_レその_レあ_レき_レし_レし_レり_レか_レん_レと_レえ_レれ

十三

し_レし_レ鳥の_レ孫_レ々_レし_レし_レ海_レ比_レハ_レ之_レ月
の_レす_レも_レ軒_レし_レし_レその_レあ_レき_レし_レし_レり_レか_レん_レと_レえ_レれ

五十四

我_レ産_レき_レる_レ家_レも_レえ_レく_レ種_レの_レ音

如_レ冊

介_レ川_レ屋_レ乃_レ萩_レの_レト_レ露

支_レ考

名_レ々_レし_レい_レつ_レく_レ草_レ子_レ名_レの_レ立_レく

水_レ屑

壬_レ生_レの_レあ_レき_レる_レも_レ田_レ舎_レち_レも_レし

可_レ白

負_レの_レこれ_レお_レ墓_レ子_レか_レ所_レ所_レ坊_レ多

笑_レ也

留_レ池_レ仕_レ也_レく_レり_レ和_レら_レ乳_レき_レふ

婁_レ父

鶴_レも_レ志_レは_レ廣_レさ_レ墓_レや_レく_レころ

反_レ扇

笹_レの_レそ_レれ_レを_レ底_レ涼_レく_レり_レり

二_レ春

才一

不易のちも也 杯のヌアれおさひー きたふみ海あ
もいふあふんと 母上よりわくゝのよとかがくさ

才二

白かき
も場んかのふ丹法師の今か唐の鞍へ下露
男とくいさくる 柳さつめ 杉さつめ

才三

何さあともなふ月の風流も 草とくさあよせつ
いささうとあ母の人のちよにおさめらんああ
ちくいさあーのあささ

神海

作^か精入法お手子梅の中ハ歌成

二百九十日也 松の月表月

戸のあまはぬれ候りちましくい

ひくさくさひおあふ徳の所境

彰起の里まおのむさくさく

垣法のあけく鳥帽子あつる人

何のうさきこころと潤さくさあけ

あさくま白くー 雪か底 曙

光徳

支考

波音

任長

如竹

信

長

青

伊勢

素名

鬼打虫の道

ふくみ

可なり

松板

松板の

高尺

量徳

出船

主惚

支考

一侍

鹿木

森味

従巳

風子

侍係

主

下馬の

下馬の

下馬の

主

下馬の

下馬の

主

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

下馬の

才一

不易のち也 掃りしきりきり 危のわたりて 子鶴の
の集のこぼれをききたる 夕ののり けいひ

才二

中人也 待しき人の おそくおそく きてまをきき 袴を
ちりちり 危のあきり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

才三

一曲なり 月の輪の 文きき ちりちり ちりちり ちりちり
乃所 ちりちり ちりちり

乃所 ちりちり ちりちり

今

雲津

めされし手紙を 出して かの 晩稻

本幡の 里乃 糸 草 外

灯臺の ちりちり 危の けいひ

持し ちりちり 危の けいひ

吹向も ちりちり 危の けいひ

空屋 ちりちり 危の けいひ

子たれ ちりちり 危の けいひ

の ちりちり 危の けいひ

一吟

支考

魚池

可虎

草

吟

虎

池

守一

なるものりやあはれおの海よりりて秋も漸くよきと
 松きく候稲のさゆきくくたひおきりとりとてし
 子福也本幡素も秋のなみゆちりくく里をくこの比の
 候内よせくくめくくくくくくくくくくくくくくくく
 ちりくくく
 その物の用はあられ面白とんかえてしとるも老
 宿の所くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ちりくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

守二

守三

山田

湯タホ染ホ

くくくくくくくくくくくくくくくく

湯染

ハ字乃くおはれ老僧も眉

老僧

川船も半居れおまのりくくくく

川船

千粒もくくくくの星も星も海や

千粒

沈合の中よひりくくくくくく

沈合

下戸のきくくくくくくくくく

下戸

舟の海もおはれ法輪も海瀬の月

舟の海

おはれ海もくくくくくくくく

おはれ海

巻一

石の形也市中に養蚕の者多し其の
人乃其の所産れきする其の久そのいふ
は白のよ海たる也

巻二

その場也きくたにわうきくきく
乃町毎の者多し其の所産れきする
わくせしてそのりれゆ流とらふ也

巻三

其の場の之轉なり其の者多し其の
つくりきくんにいそそわわわわわわ
きくきくきくきく

全

あゝの〜白〜豆腐は梅の葉

雪〜海砂 里坊り見

菱川の橋は突立波か〜ん

風の音は伝へ何の者もれ

夕陽の影は〜 橋をさ

夕陽の影は〜 橋をさ

跡の白は〜 橋をさ

跡の白は〜 橋をさ

乙由

支考

及米

水南

爪止

香流

唐庭

和

表合紙



東京大学図書
6488
昭和36.3.14

